

置を使用予定です。) 造成によって出る土や伐採した樹木は場内にて仮置きします。これらの工事を慎重に繰り返し行い、敷地内メンテナンス道路を先行して工事を行い、調整池 2 及び調整池 1 を順次築造します。その後、宅盤の造成や雨水の側溝等の本設を行い、最終段階としてソーラーパネル等設置による電気設備工事を行う予定です。工事期間につきましては、平成 31 年 3 月末までに造成工事を終了し、平成 32 年 3 月末までに電気工事を完了させる予定です。

現在県及び市におきまして設計審査中であり、工事の詳細な工程につきましては、工事着手前に現場お知らせ看板に貼り出す等、ご近隣の皆様へ周知致します。

G-2

森林は樹木が集中しているから強風にも耐えられることは常識です 樹木を伐採し森林の中をくりぬいた場合、この地区特有の” ならい” により内側から順次倒木して残置森林幅 30mの確保はおろか、さらにすすんで 0mの個所が現れることを心配します 近い将来残置森林率が 50%を下回ることも予測されます このような予想に対する貴社の考えを聞かせて下さい このようなことは起こり得ないと考えるならその論拠を説明して下さい

(回答)

残置森林が強風により全て倒木し、幅が 0mになることはありません。今回の計画と同様な開発であるゴルフ場や別荘地につきましても、森林部分をくり抜くように伐採し造成工事をしております。ご指摘にあります、強風により樹木が内側から順次倒木してしまうのであれば、全国にあるゴルフ場や別荘地は残置森林がなくなってしまいます。また、現在稼働中で弊社が知り得る太陽光発電所においてもそのような事例はありません。

G-3

ボーリング調査結果が本計画にどのように織り込まれているのですか 例えば、最大の調整池の杭の太さ、長さ、本数のデータそれとも堀込池には杭は打たないのですか

(回答)

ボーリング調査を行った結果、現状の地層や地耐力、浸透率が把握でき、調整池の配置位置や深さ、造成レベル等の設定に反映されております。現在計画している調整池に杭は使用致しません。

G-4

函南、鎌田、伊豆高原の中から伊豆高原を選んだ経緯は何いました 何故伊豆半島を立地として選択されたのですか

(回答)

伊豆半島を太陽光発電所の立地に選定した理由につきましては、日照が十分あり太陽光発電所としての立地に適していると判断した為となります。また、現在弊社は東京都中央区に本社がありますが、伊豆半島へは 2 時間弱で到着出来る為、東京からの距離も選定の理由となっております。